

福岡市科学館を会場に行われたCAP2018に参加してきましたので、ご報告。

筆者(高梨)は1泊2日の強行軍でしたが、なかなか楽しかったです。

高梨直紘(東京大学) / 平松正顕(国立天文台チリ観測所)

この3月末に行われた世界天文コミュニケーション会議2018(CAP2018)に、天プラの面々も参加してきました。人々と天文学をつなげるさまざまな活動をテーマとするこの国際会議は、天文学のながい歴史に比べればごく最近とも言える、2005年に始まったばかり。今回は日本で初開催とのことで、これは参加しないわけにはいかないでしょうというわけで、私たちも参戦してきました。

会場となった福岡市科学館に集まったのは、世界53カ国からの参加者、約450名。その半数が海外からの参加者、たいへん国際色豊かな研究会でした。天プラからは、天プラの活動全体に関するポスター、六本木天文クラブに関するポスター、そして宇宙図2018に関するポスターの計3種類のポスターを出展しました。最初はどの程度食いついてもらえるのか多少不安もありましたが、いずれもなかなか良い手応えでした。アストロ

ノミカル・トイレットペーパーやタイツといった小物も受けて良かったですし、宇宙図も翻訳したい!という方が複数いたので、ぜひ話を進めて行きたいと思います。その報告はまた後日。

しかし、世界のさまざまな場所で活動する人たちが一堂に会して、互いに活動を紹介し、熱く議論する様子はなかなか感動的でした。もちろん、福岡に集まったのは世界各地で活動している人々の全てではなく、そのごく一部に過ぎません。それでも、それぞれの目標に向かって、天文学と人々をつなぐバラエティに富んだ取り組みに触れることができたことは、私たちにとっても勇気づけられる貴重な経験でした。

今回、この国際会議に参加して確認できたことは3つ。ひとつは、私たちの活動のあり方は世界的に見てもかなりユニークな立ち位置にありそうなこと。ひとつは、私たちのグローバルな情報発信



アストロノミカル・トイレットペーパーは今回も人気でした。

は現状ではまったく足りていないこと。ひとつは、そのような状況を悔しいと思えること。今回もらった刺激を糧に、グローバルな展開にもより積極的に取り組んでいこうと思いました。がんばろう!